

映画観て飯喰って寝た
結果

山城

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

「映画観て飯喰って寝る！ 男の鍛錬はソイツで十分だツ!!」

超人的な力を持つ主人公は、映画観て飯喰って寝た結果が『最強』だった。

そんなんでいいのか、こんなもんだろ。

そんなこんなで始まります。

1
話

目次

1

1話

——時空管理局・巡航L級8番艦 次元空間航行艦船 アースラ内部

「はあ？」

開口一番、こちらに対して疑問符を浮かべ若干威圧的な態度を取ってきた赤髪の少年、自分にとつての親友、アレス・カータレットはそう言った。

「ちよつと待てよ、クロノ。それは一体どういう事だ？」

こちらに対して納得のいく応答を望んでいる。というアレスに対して僕、クロノ・ハラオウンは言つてやった。

「だから、君にも捜索隊に加わつて貰いたい。と言つているんだ」

最近、頻繁に起こっている魔力を造るための器官、リンカーコアを無差別に抜かれているという事件が起こっている。なので、その事件の手がかりを掴むために派遣する捜索隊にアレスを加えたい、ということだ。

その事をアレスに言うよ

「いいけどよ……」

アレスは肯定した、が続けて言う

「敵が空だったら俺は役立たずだぞ？」

「それについては心配ないさ。捜索隊にはちゃんと空が使える者も配属する。それに君だって空を往く者に対抗出来ないってわけでもないだろ？ 何たって君は最強なんだから」

『空だったら役立たず』と彼は言う。最もそれは謙遜などではない。

かと言っても全くの役立たずというわけでもないのだが。

実は、彼は空の資質が無い。そしてもつと根本的な話をしてしまえば彼にはリンカーコアが『ない』

そう、僕達魔導師が日常的に使っている魔力。それを精製するための器官、リンカーコアその物が無いのだ。

だが、さっき言った様に彼が『最強』と呼ばれる所以は、シンプル、とてもシンプルなのだ。

それは『力』、力だ。パワーなのだ。

彼が踏み抜けば地面は砕け、殴れば建物が崩壊する。垂直跳びでは約3階建てのビルの屋上まで跳べるし海の上だって走れる。

魔法を使つて魔力で身体強化をしなければ到底出来そうにない事を、彼は生身でやってみせる。それが、彼が最強と呼ばれる理由なのだ。

この前の模擬戦などでは踏み碎いたコンクリートを蹴り飛ばし、空を飛ぶ魔導師に当
てて勝利するなどという超人っぷりを見せた。

そんな彼が捜索隊に加わるのだ、これほど頼もしい味方などいないだろう。
そう思つて僕はアレスに頼んだのだ。

「全く、最強なんて軽々しく言つてくれちゃつてさー」

アレスはおどけた調子で言う

「ま、いいや。ところで捜索隊の出発はいつだ？」

「3日後だよ」

僕がそう言うのと彼は敬礼して言った

「了解した。アレス・カータレット三等陸尉、出撃しよう」

さて、僕もこの事件についての書類を纏めないとな……

と、思つたのだが

「てことでクロノ！ 飯食いに行こうぜ！」

さつきとは違い完全にオフな態度で彼は言った。一応まだ勤務時間ということ
を忘れてないかい？

「何が、てことで。なのか分からないが……まあ、いいよ。食べに行こうか」

丁度、腹の虫も鳴く頃だ。

「よし、じゃあ食堂にレッツゴーだ！」

「ア、アレス！ 服を引っ張るな伸びるだろう！」

アレスに服を引っ張られながらアレスと僕は食堂に向かうのだった。